

立正大学博物館年報

4

平成17 (2005) 年度

立正大学博物館

序

開館4年目の平成17(2005)年度は、主として当館所蔵資料の整理と点検を実施し、寄贈資料ともども「収蔵品目録」の作成準備に当った。その間、開館以来の「常設展示」の展示替え、解説パネルの整備を試み、あるべき大学付置博物館の実施について模索することがあった。

そのためもあって企画展と特別展、それに伴う公開講演会の開催を中止し、明年以降に備えることにし、専ら内なる充実に心掛け、来るべき明年の事業展開の準備期間とした。

本年度も立正大学博物館課程の館務実習の場として機能したのをはじめ、各地の教育委員会や学会・研究会の視察、熊谷校舎オープンキャンパス及び高校単位の見学にも力を尽くしたのである。一方、当館に寄せられた学内・外のご意見に耳を傾け、その一部については『万吉だより』(館報)に掲載させて頂き活用に供したこと従前の通りである。今後とも当館の運営と充実に資する有識者各位のご意見として大いに歓迎していきたいと思っている。

平成18(2006)年3月

館長 坂 誥 秀 一

序

I. 博物館の概要	(2)	III. 寄贈図書目録	(21)
(1) 組織と職員			
(2) 立正大学組織表			
(3) 立正大学博物館規定			
(4) 立正大学博物館細則			
(5) 施 設			
II. 事業報告	(13)		
(1) 平成17年度収支報告			
(2) 開館日数・入館者数			
(3) 出 版			
(4) 資料活用			
(5) 常設展示			
(6) 調査 研究			
(7) 教育 普及			

I. 博物館の概要

(1) 組織と職員

a. 職員

館長	坂詰秀一
専門職員	上野恵司
事務員	田村佳道

b. 運営委員

第1号委員

坂詰秀一（博物館長・文学部教授）

第2号委員

上野恵司（専門職員・文学部特任講師）

第3号委員

坂本 仁（法学部長・法学部教授）

澤田裕之（社会福祉学部長・

地球環境科学部教授）

第4号委員

池田宗彰（経済研究所長・経済学部教授）

三友量順（環境科学研究所長・
社会福祉学部教授）

第5号委員

坂輪宣敬（博物館関係学識経験者・
仏教学部教授）

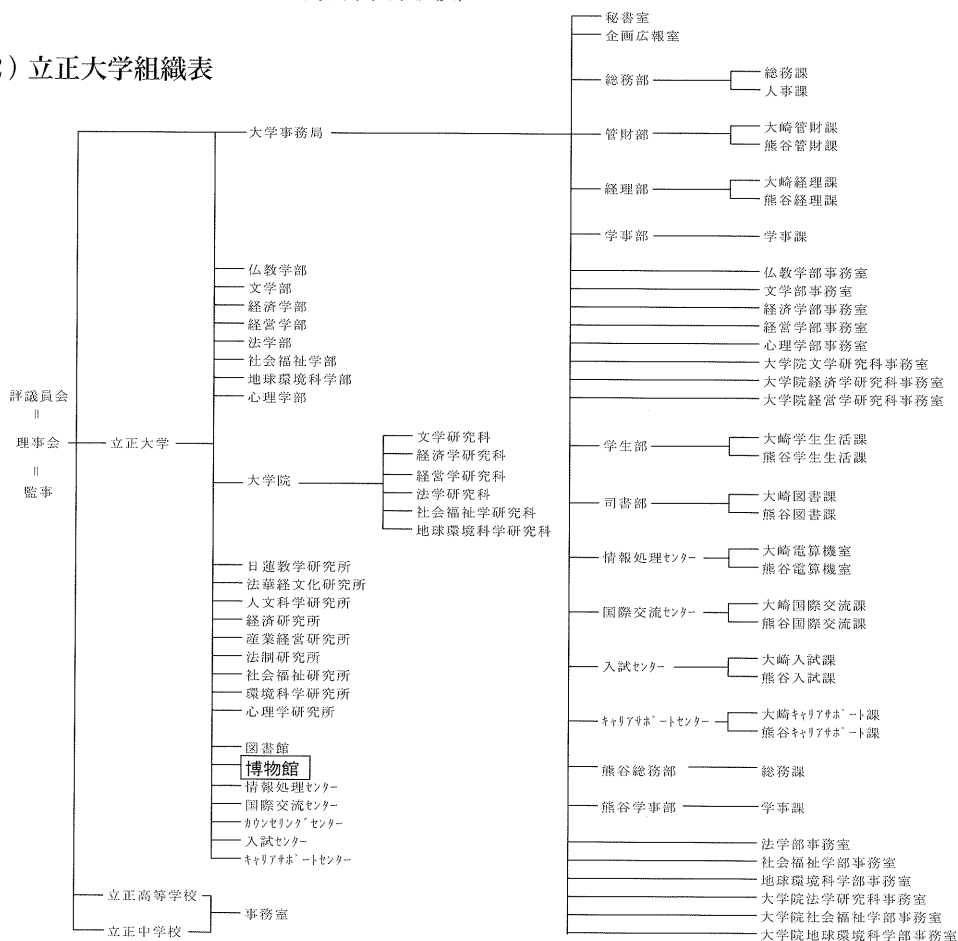
第6号委員

野沢佳美（文化史関係学識経験者・
文学部教授）

第7号委員

菊地隆男（自然誌関係学識経験者・
地球環境科学部助教授）

(2) 立正大学組織表



(3) 立正大学博物館規定

(設定)

第1条 立正大学学則第9条の規定に基づき、熊谷キャンパスに「立正大学博物館」(以下「博物館」という)を置く。

(目的)

第2条 博物館は歴史・芸術・民俗・産業・自然誌に関する学術的資料(以下「資料等」という)を収集、保管し、これを組織的に展示し、広く社会に公開するとともに、これらの調査研究を行うことによって大学における教育・研究の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 博物館は前条に規定する目的を達成するため、次の事業を行う。

- 一 資料等の収集、整理および保管
- 二 資料等の展示および公開
- 三 調査研究活動
- 四 調査研究成果の発表および出版
- 五 本学における博物館関係科目、その他関連授業科目の教育活動への協力
- 六 講演会、講習会および特別展示会の開催
- 七 その他必要な事業

(職員)

第4条 博物館に次の職員を置く。

- 一 館長
- 二 専門職員

(館長)

第5条 博物館に館長を置く。

- 2 館長は博物館を代表し、博物館の教務を総括する。
- 3 館長は全学協議会に諮り、本学専任教職員より学長が任命する。
- 4 館長の任期は3年とし、再任を妨げない。

い。

- 5 館長が欠けたときは、補充しなければならない。この場合において、その任期は前任者の残任期間とする。

(専門職員)

第6条 専門職員は第3条に定める事業に従事するとともに、これに関連する業務を行う。

- 2 専門職員は博物館学芸員の資格を有するものとし、任期は3年とする。

(運営委員会)

第7条 博物館の管理運営に必要な事項を審議するため、博物館運営委員会(以下「委員会」という)を置く。

(委員会・構成)

第8条 委員会は、次の者を以って構成し、学長が委嘱する。

- 一 館長
- 二 専門委員
- 三 学部長から2名
- 四 研究所長から2名
- 五 博物館学芸員関係学識経験者から1名
- 六 考古学および文化史関係学識経験者から1名
- 七 自然誌関係学識経験者から1名

- 2 館長の推薦により、前項に定める委員会のほか、学識経験者若干名を加えることができる。学識経験者委員の委嘱は学長が行う。

- 3 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

(委員の任期)

第9条 前条第三号乃至六号および第2項の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

- 2 任期中に欠員が生じた場合は、委員を補充し、任期は前任者の残任期間とする。

(委員会の運営)

第10条 委員会は、館長が召集し、議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数の同意をもって決する。

(委員会の審議事項)

第11条 委員会は、以下の事項について審議する。

- 一 資料等の収集、整理、保管、展示および公開に関する事項
- 二 博物館の管理運営に関する事項
- 三 調査研究活動ならびにその成果の発表および出版に関する事項

(4) 立正大学博物館細則

(趣旨)

第1条 この細則は立正大学博物館規程第12条の規定に基づき、同規程の施行について必要な事項を定めるものとする。

(開館日)

第2条 立正大学博物館(以下「博物館」という)の開館日は原則として立正大学学則第31条に定める休業日および火曜日を除く日とする。

(開館時間)

第3条 博物館の開館時間は、午前10時から午後4時までとする。

(入館手続)

第4条 博物館に入館する者は、所定の手続きをとらなければならない。

- 2 館長は博物館における教育および研究活動に支障があると認める場合は、入館を許可しないことがある。

四 博物館関係科目、その他関連授業科目の教育活動への協力に関する事項

五 博物館の予算・決算に関する事項

六 その他必要な事業に関する事

(細則)

第12条 この規定に定めるもののほか、管理運営上必要な事項は、立正大学博物館規定細則によるものとする。

(規程の改廃)

第13条 本規程の改廃は委員会および全学協議会の議を経るものとする。

附則

この規程は平成14年4月1日から施行する。

(入館料)

第5条 博物館の入館料は原則として無料とする。

(入館者の義務)

第6条 入館者は博物館の施設・資料等を毀損し、または滅失したときは、直ちに館長に届け出て、その指示に従わなければならない。

- 2 入館者は前項の規定にある損害に対し損害賠償の義務を負わなければならない。ただし、事情によりこれを免除または軽減することができる。

(資料等の利用)

第7条 博物館内において撮影、実測、特殊観察、複製製作の目的で資料等の利用を希望する者は、館内利用許可申請書(様式2)を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

- 2 資料の所蔵者または寄託者が学外にある場合は、当該資料の利用を希望する者は事前に所蔵者または寄託者の承認を受け、それを証明する書類を利用許可申請書に添付しなければならない。
- 3 利用を許可された者は次に掲げる事項を遵守しなければならない。
 - 一 利用に際しては博物館の専門職員の支持に従うこと。
 - 二 利用による成果を刊行物、映画フィルム、ビデオテープ等に発表したときは、本博物館の名称およびその所蔵、または保管である旨を明記すること。
 - 三 利用により生じた著作物等は利用許可申請書に記載の目的以外には使用しないこと。
 - 四 館長は、第1項の利用許可申請書の提出があったときは、審査のうえ館内利用許可書(様式2)を交付する。ただし、重要文化財およびこれに準ずる資料等については、立正大学博物館運営委員会(以下「委員会」という)の議を経なければならない。なお、館長は管理上支障があると判断した場合は、許可を取り消すことができる。
 - 五 本条第1項による利用許可を受けた者が、当該資料を毀損した場合は、損害賠償の義務を負わなければならない。

(資料等の利用料金)

- 第8条 前条第3項により許可を受けた者は、別に定める利用料金を速やかに経理部に納入しなければならない。
- 2 館長は、前項の定めにかかわらず次の各号のいずれかに該当する場合は、利

用料金を全額免除することができる。

- 一 各種教育機関や国または地方公共団体および公益法人が行う教育、学術および文化等に関する事業
 - 二 博物館法(昭和26年法律第285号)に規定する博物館等の行う事業
 - 三 学術研究
 - 四 前号のほか、館長が全額免除すべき特別の理由があると認めたとき
- 3 前項の定めにより利用料金を全額免除された者は、利用により生じた著作物1部以上を無償で博物館に納入しなければならない。ただし、館長が認めたときはこの限りでない。

(資料等の貸出)

- 第9条 資料などの貸出を受けようとする者は、館外貸出許可申請書(様式3)を館長に提出し、その許可を受けなければならない。
- 2 館長は前項の貸出許可申請書(様式4)の提出があったときは、審査のうえ館外貸出許可書(様式4)を交付する。ただし、重要文化財およびこれに準ずる資料等については、委員会の議を経て決定しなければならない。
 - 3 館長は管理上支障があると認められる場合は、前項の許可を取り消すことができる。
 - 4 本条第1項による許可を受けた者は、貸出期間中に当該資料等を毀損または滅失した場合は、損害賠償の義務を負わなければならない。

(資料等の貸出料金)

- 第10条 前条第2項による許可を受けた者は、別に定める利用料金を速やかに経理部に納入するとともに、貸出期間中および貸出に伴うすべての経費を負担する

ものとする。

- 2 前項の定めにかかわらず、第8条第2項一号、二号および四号のいずれかに該当する場合は、貸出料金を全額免除する。
- 3 前項の定めにより貸出利用料金を全額免除された者は、利用により生じた著作物を1部以上、博物館に寄贈しなければならない。ただし、館長が特に認めたときはこの限りでない。

(寄託)

- 第11条 資料等を寄贈・寄託しようとする者は、その品目、点数、期間等を寄贈申請書(様式5)寄託申込書(様式6)に記入のうえ、館長に提出するものとする。
- 2 館長は前項に定める寄贈・寄託の申出があった時は、委員会の審議に附し、受入の承認がなされたものについて、

学長に意見書を提出しなければならない。

- 3 館長は寄贈・寄託を受けた時は、寄贈・寄託者に対して該当資料の受領証(様式7)・受託証(様式8)を交付するものとする。
- 4 館長は、寄託を受けた資料等について十分な注意を持って保管しなければならない。

(細則の改廃)

第12条 本細則の改廃は、委員会および全学協議会の議を経るものとする。

(附則)

- 1 この細則に定めのない事項については、館長がその都度、委員会に諮り処理する。
- 2 この細則は平成14年4月1日から施行する。
- 3 この細則は平成15年4月1日から施行する。

様式一覧

様式1

受付番号

立正大学博物館資料
館内利用許可申請書

年 月 日

立正大学博物館長 様

住 所
団 体 名
代表者氏名
電 話

下記のとおり立正大学博物館資料の館内利用をしたいので申請します。

記

利 用 目 的	資 料 番 号	資 料 名	数 量	備 考
利 用 資 料				
利 用 区 分	閲覧・模写・模造・撮影・その他 ()			
利 用 期 間	年 月 日 () から 年 月 日 () まで			
利 用 責 任 者				

※ 寄託資料については寄託者の承認書を、借用資料については貸与者の承認書を、著作権者がある資料については著作権者の承認書を添付してください。

様式2

第 号

立正大学博物館資料
館内利用許可書

年 月 日

様

立正大学博物館長 印

下記のとおり立正大学博物館資料の館内利用を許可します。

記

利 用 目 的	資 料 番 号	資 料 名	数 量	備 考
利 用 資 料				
利 用 区 分	閲覧・模写・模造・撮影・その他 ()			
利 用 期 間	年 月 日 () から 年 月 日 () まで			
利 用 責 任 者				

※ この許可書は、立正大学博物館資料館内利用の際に提示し、利用期間中携帯してください。

様式3

受付番号

立正大学博物館資料

館外貸出許可申請書

年 月 日

立正大学博物館長 様

住 所

団 体 名

代表者氏名

電 話

下記のとおり立正大学博物館資料の館外貸出しを受けたいので申請します。

記

利 用 目 的				
貸 出 資 料	資 料 番 号	資 料 名	数 量	備 考
貸 出 期 間	年 月 日 () から 年 月 日 () まで			
利 用 場 所				
利 用 方 法				
輸 送 方 法				
取 扱 責 任 者				

※ 寄託資料については寄託者の承認書を、著作権者がある資料については著作権者の承認書を添付してください。

様式4

第 号

立正大学博物館資料

館外貸出許可書

年 月 日

様

立正大学博物館長 印

下記のとおり立正大学博物館資料の館外貸出しを許可します。

記

利 用 目 的				
貸 出 資 料	資 料 番 号	資 料 名	数 量	備 考
貸 出 期 間	年 月 日 () から 年 月 日 () まで			
利 用 場 所				
利 用 方 法				
輸 送 方 法				
取 扱 責 任 者				

※ この許可書は、立正大学博物館資料の館外貸出しを受ける際に提示してください。

様式5

受付番号

様式6

受付番号

博物館資料寄贈申請書

博物館資料寄託申請書

年 月 日

年 月 日

立正大学博物館長 様

立正大学博物館長 様

申請者 住所
氏名
電話

申請者 住所
氏名
電話

印

印

下記のとおり博物館資料として寄贈したいので申請します。

下記のとおり博物館資料として寄託したいので申請します。

記

記

資 料 名	数 量	備 考

寄託期間	年 月 日 () から 年 月 日 () まで		
	資 料 名	数 量	備 考

様式7

第 号

博物館資料受領証

年 月 日
様

立正大学博物館長 印

様式8

第 号

博物館資料受託証

年 月 日
様

立正大学博物館長 印

下記のとおり博物館資料として受領しました。

記

資料名	数量	備考

下記のとおり博物館資料として受託しました。

記

受託期間	年 月 日 () から	年 月 日 () まで	資料名	数量	備考
受託資料					

博物館資料借用書

年 月 日

様

立正大学博物館長 印

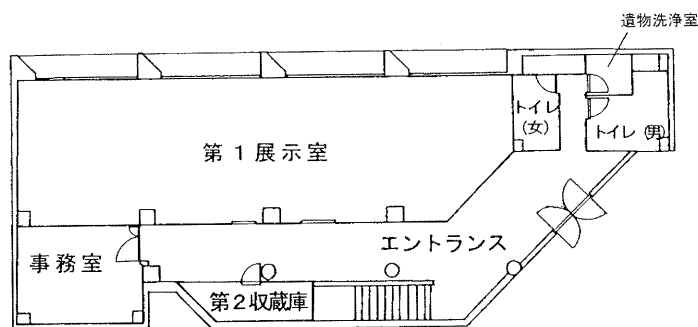
下記のとおり博物館資料として借用しました。

記

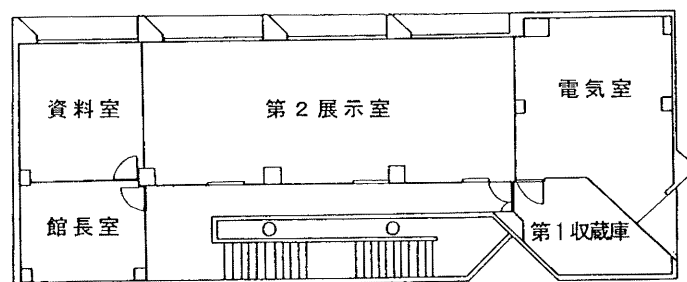
使用期間	年 月 日 () から 年 月 日 () まで									
借用理由										
借用資料	資料	名	数量	備考						
取扱担当者										

※ この借用書は、博物館資料の返却時に返していただきますので、大切に保管してください。

(5) 施設



博物館 1階 平面図



博物館 2階 平面図

(S=1/200)

- 建物
所 在・・・埼玉県熊谷市万吉1700
建築面積・・・376.8㎡
構 造・・・鉄筋コンクリート造 2階建

● 各室面積一覧 (1階)

第1展示室	・・・93.88㎡
事務室	・・・17.10㎡
第2収蔵庫	・・・3.22㎡
トイレ	・・・11.01㎡
遺物洗浄室	・・・2.26㎡

エントランス・・・45.64㎡

(2階)

第2展示室	・・・71.22㎡
館長室	・・・16.98㎡
資料室	・・・23.89㎡
第1収蔵庫	・・・12.30㎡
電気室	・・・39.00㎡

● 各室仕様

(第1展示室・事務室)

床・・・タイルカーペット敷
壁・・・ビニールクロス貼り
天井・・・ミネラートン

(第2展示室)

床・・・タイルカーペット敷
壁・・・ビニールクロス貼り
天井・・・ミネラートン

(館長室・資料室)

床・・・タイルカーペット敷
壁・・・ビニールクロス貼り
天井・・・ジブトーン

● 電気設備

受電設備・・・6.6KV
変圧器設備・・・電灯100KVA
動力80KVA
照明設備・・・展示室ハロゲンランプ使用。
館長室・事務室・
資料室一蛍光灯使用。

● 防犯・防災設備

防犯設備・・・各室、熱線センサー取付、
非常通報設備。
I T V 設備・・・CCDカメラ4台、
展示室等監視。
自動火災報知設備・・・P型1級5回線
消火設備・・・粉末消火器9台

● 空調設備

空調機・・・空冷式、
パッケージエアコン(個別)

● 給排水設備

給水設備・・・市水道使用
給湯設備・・・貯湯式電気湯沸器

● 付設

第3収蔵庫・・・79.32㎡
臨時収蔵庫・・・94.50㎡

II. 事業報告

(1) 平成17年度収支計報告

予 算 科 目		17 年度当	17 年度	17 年度補正	決 算	増 減
目的及び大科目	小 (細) 科目	初予算	補正額	後予算		
人 件 費		1,008,000	184,000	1,192,000	1,123,422	68,578
	教員人件費	0	22,000	22,000	22,222	-222
	その他の手当て (教・本)	0	22,000	22,000	22,222	-222
	職員人件費	1,008,000	162,000	1,170,000	1,101,200	68,800
	雑給 (職・兼)	1,008,000	162,000	1,170,000	1,101,200	68,800
教育研究経費		3,575,000	26,000	3,601,000	2,010,285	1,590,715
	会議会合費	100,000	0	100,000	28,956	71,044
	旅費交通費	220,000	-35,000	185,000	70,560	114,440
	その他の旅費交通費	220,000	-35,000	185,000	70,560	114,440
	通信運搬費	320,000	50,000	370,000	325,966	44,034
	電 話 料	120,000	0	120,000	84,896	35,104
	その他の通信運搬費	200,000	50,000	250,000	241,070	8,930
	消耗品費	390,000	26,000	416,000	323,748	92,252
	印刷製本費	2,360,000	0	2,360,000	1,194,724	1,165,276
	コピー料	360,000	0	360,000	267,154	92,846
	その他の印刷製本費	2,000,000	0	2,000,000	927,570	1,072,430
	諸 会 費	25,000	35,000	60,000	60,000	0
	図書資料費	50,000	0	50,000	3,745	46,255
	手数料報酬	100,000	-50,000	50,000	0	50,000
	雑 費	10,000	0	10,000	2,586	7,414
設備関係支出		0	0	0	0	0
	教育研究用機器備品	0	0	0	0	0
合 計		4,583,000	210,000	4,793,000	3,133,707	1,659,293

(2) 開館日数・入館者数

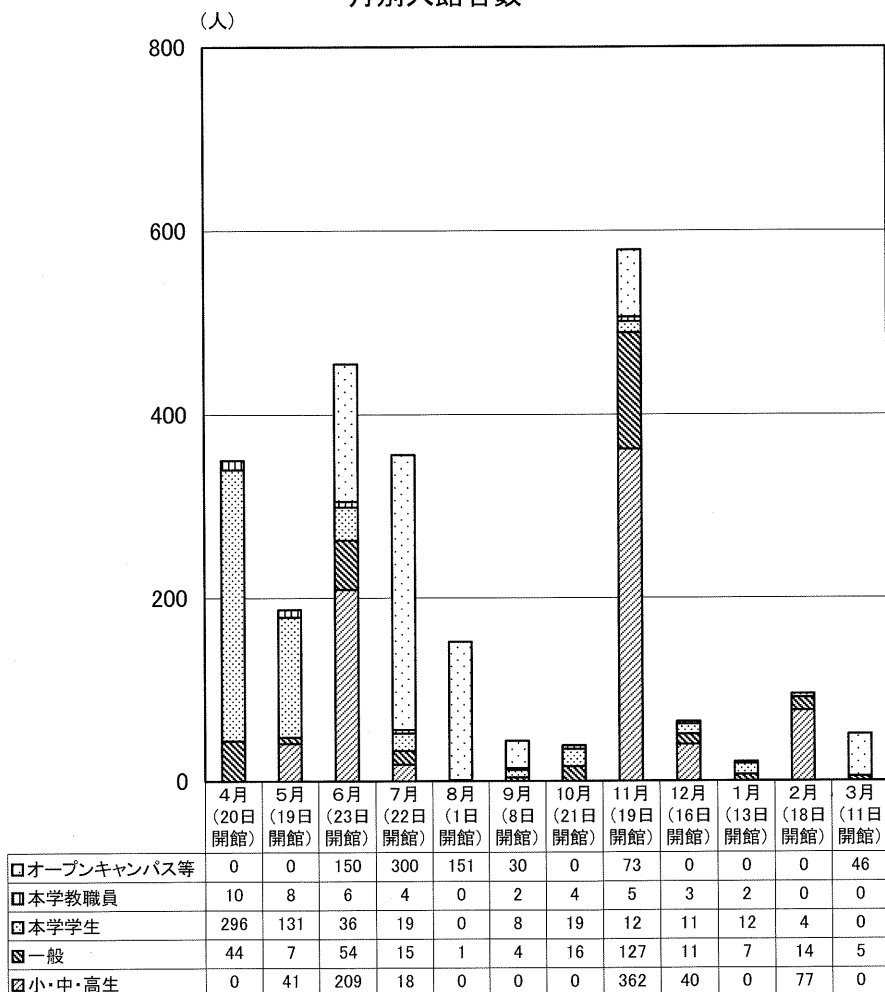
平成17年4月1日から平成18年3月31日の間で、博物館は191日開館した。本来、休館日(火・日曜日)および大学休業日である夏・春期休暇中は開館していないが、外部からの要望もあり出来る限り開館に努めた。

入館者数は、4月が計350人、5月が計187人、6月が計455人、7月が計356人、8月が計152人、9月が計44人、10月が計39人、11月が計579人、12月が計65人、1月が計21人、2月が

計95人、3月が計51人、合計2,394人であった。

その内訳は、表1が示すように、小・中・高校生が計747人、一般が計305人、本学学生が計548人、本学教職員が計44人、オープンキャンパス時の入館者数が計750人であった。

月別入館者数



(3) 出版

本年度は、以下の出版物を刊行した。

・立正大学博物館報『万吉だより』第4号

・立正大学博物館年報 第3号

(4) 資料活用

当館所蔵の資料を以下の博物館に貸出した。

・10月8日(土)～12月4日(日) 板橋区立郷土資料館 縄文式土器(吉田格コレクション)

・10月8日(土)～12月24日(土) 品川区立品川歴史館 人物埴輪1点

14点

(5) 展 示

1. 常 設

ー第1展示室ー

①撫石庵コレクション

眞鍋孝志氏（古鐘研究会会長）より寄贈されたアジア諸地域の梵音具を中心とするコレクションである。

日本をはじめ、朝鮮半島・中国・タイ・ミャンマー・スリランカなどアジア各地の梵音具（鐘・鐸）のほか、金銅釈迦如来立像などが含まれている。

アジア梵音具の資料として稀有のコレクションであり、中国の甬鐘、伝タイの銅鼓をも加えた資料は注目される。

とくに、伝檜原市出土の平安時代前期の梵鐘は、わが国の初現期の梵鐘として10指に入るもので、きわめて貴重な資料である。



銅鼓（タイ）

②旧石器時代～古墳時代

旧石器時代～古墳時代にわたる資料。

旧石器時代では、日本の旧石器時代の代表的遺跡として知られる北海道白滝遺跡の出土品と本学が発掘した北海道報徳遺跡、神奈川県朝日遺跡の出土品などがある。とくに朝日遺跡は、

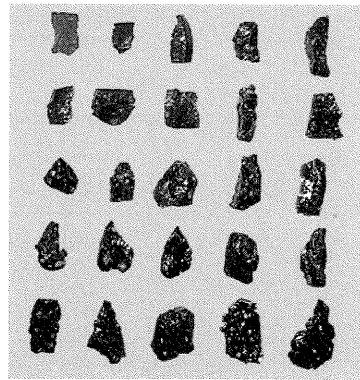
獅子文六『箱根山』に登場する遺跡として有名であるが、神奈川県下で最初に発掘された旧石器時代の遺跡としても知られている。

縄文時代では、埼玉県石神貝塚、千葉県築地台貝塚の出土品などがあり、縄文時代後～晩期の貝塚群の一括資料として知られている。

弥生時代では、東京都久ヶ原出土の弥生式土器がある。弥生時代後期の集落跡として著名な遺跡から昭和10年代に出土したものとして古くから考古学界に知られている。

古墳時代の資料として、埼玉県野原古墳群の発掘調査資料である耳飾、直刀、鉄鏃、須恵器などを展示している。

ほかに、弥生時代の伝福岡県須玖出土の銅戈、昭和の初頭の寄贈品の鏡（位至三公鏡）などが展示されている。

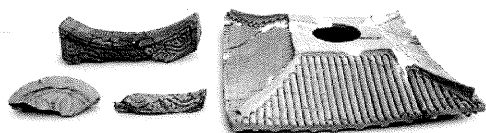


朝日遺跡（神奈川県）、石器

③古代窯跡発掘の須恵器・瓦塼・硯・瓦塔

1958年～1980年にかけて立正大学考古学研究室が、文部省の科学研究費の交付などを受けて実施した「古代窯業の考古学的研究」によって発掘された資料である。

青森県に存在する北限の五所川原〔前田野目〕窯跡、出羽（山形県）の荒沢・町沢田窯跡、上野（群馬県）の金山瓦窯跡・上小友窯跡、信濃（長野県）の宮洞・若宮・御牧ノ上・八重原窯跡、武蔵（埼玉県）の亀ノ原・新沼・山田・宮ノ前・虫草山・東金子などの窯跡、備後（広島県）の青水窯跡、筑前（福岡県）の平田窯跡などからの出土品で、いずれも古代生産の実態、土器の編年、瓦磚の供給問題についての貴重な資料として知られている。



新沼窯跡（埼玉県）、瓦・瓦塔

④古代～近世

古代～近世にかけての資料。

古代では、千葉県九十九坊廃寺・同長熊廃寺跡の出土品がある。とくに、長熊廃寺跡は、本学が1951年から'53年にかけて発掘した遺跡として知られている。土師器の火葬骨蔵器は、主として神奈川県下の出土品。

中世では、板碑・骨蔵器、近世では、東京都増上寺徳川將軍家関係墳墓出土の一字一石経などが展示されている。



長熊廃寺（千葉県）、瓦

⑤熊谷キャンパス内出土資料

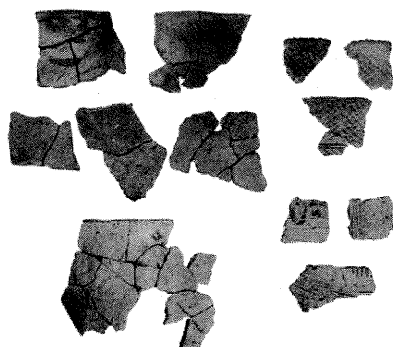
熊谷キャンパスにおける施設の新築などに際して、法（文化財保護法）によって定められた遺跡の発掘調査を実施しているが、その折、貴重な資料が出土している。

とくに旧石器時代後期の石器群、縄文時代早期の土器群の出土は、埼玉県内の旧石器文化の様相、土器文化の起源を探るうえできわめて貴重な資料として注目されている。また、古墳時代後期～平安時代にかけての集落跡、江戸時代の遺跡も発掘され、教育の場、研究資料としても活用されている。

調査を担当している立正大学熊谷校地遺跡調査室は、他大学に先がけて設置された調査機関であり、国立・私立大学の先駆的事例として諸大学の参考となっている。



早期の縄文土器 1



早期の縄文土器 2

—第2展示室—

⑥樺太出土資料

久保常晴氏（元本学名誉教授）寄贈の樺太出土資料（土器・石器・骨角器）は、同氏が1930年代に樺太の地を調査した際に出土したものである。

樺太出土の資料は、現在、日本各地に所蔵されているが、その一つとして立正大学所蔵品の存在が知られている。

⑦吉田 格コレクション

吉田 格氏（立正大学専門部地歴科・昭和16（1941）年卒）寄贈のコレクションである。吉田氏は縄文時代研究の学者として著名であり、とくに縄文時代早期の花輪台式、後期の称名寺式は氏によって設定された型式標準資料として学界に周知されている。



称名寺B貝塚（神奈川県）、称名寺Ⅱ式土器

関東地方でもっとも早く発掘された旧石器時代後期の遺跡（熊ノ郷・殿ヶ谷戸・西之台Bなど）、縄文時代各時期の遺跡群からの出土資料、とくに早期の花輪台式・子母口式、後期の称名

寺式・堀之内式、晩期の安行各式土器は、多数の土製耳飾りおよび諸貝塚出土の骨角製品とともに広く知られている。とくに称名寺貝塚出土の土器・石器・骨角器および骨角器原料（鹿角）は縄文時代の研究上、きわめて重要な資料である。

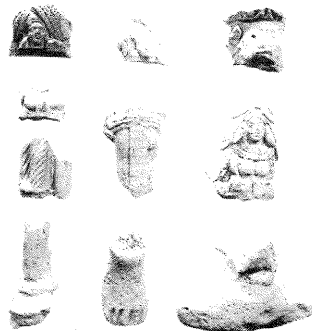
本草学者・伊藤圭介（日本最初の理学博士）蒐集の石器は『日本産物誌』明治9（1876）年に収められているものであり、嘉永5（1852）年の箱書きを持つ収蔵箱に収められている石器とともに、きわめて貴重な資料として吉田コレクションに収められている。

⑧ネパール・ティラウラコット出土資料群

1967年～1977年にかけて、立正大学がネパール王国に派遣した発掘調査団によって発掘された資料であり、とくに日ネ親善のためネパール考古局より寄贈された資料である。

ティラウラコット遺跡は、釈尊出家の故城ーカピラ城跡の有力な比定遺跡として世界の学界に知られていた。その地を10年間にわたって発掘調査した結果、カピラ城跡の最有力遺跡として注目されるにいたっている。

東西約400m、南北約480mの方形の城跡内に7つの遺丘が存在し、その中の2つを発掘して得られた資料である。



ティラウラコット遺跡（ネパール王国）人物土偶

(6) 調査・研究等

平成14年度に、眞鍋孝志氏（日本古鐘研究会会長）より、梵音具を中心とするコレクションの寄贈を受けた。今回このうちの半鐘1点について報告する。

半鐘は、総高52.6cm、口径30.8cm、口唇部の厚さ3.0cmを測る。青銅製であり、色調は、淡黒褐色を呈している。

鐘身には、一区内3段4列の乳が合計48個並んでいる。また、竜頭と平行する撞座が2ヶ所認められ、撞座は複弁16葉蓮華文を呈する。撞座の大きさは、径5.5cmで9葉文がある。上帯には、文様は認められないが、下帯には唐草文がめぐっている。

龍頭の形は、2頭の龍を背中合わせにつけ、中央部に宝珠を配する一般的なものである。大きさは、高さ12.5cm、笠形部と接するところで最大径3.3cmである。

また、駒の爪の下から22.0cmのところには粗雑に整形された鋳継ぎ痕がみられる。

内側には龍頭と直行する形で、幅6.0cm、高さ3.0cm、厚さ1.5cmで、中心に径1.6cmの穴が開いた舌を懸ける為の突起と思われるものがみられる。

次に、池の間に銘文は、池の間3区に以下のように陰刻されている。

第1区「武州那珂郡古郡村／日光山安光寺常什物／翠岩置」

第2区「五樂堂道然居士／秀延誠有信女／桐葉齋遊仙法道居士／轉舉壽清信女／東軒齋鐵山道空居士／真雲齋法山道榮居士」

第3区「施主江戸呉服町／谷口要助／粉川市正作」

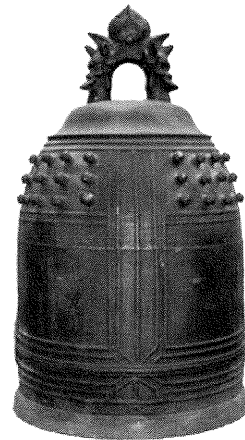
銘文にみられる「武州那珂郡古郡村」は、現在の埼玉県児玉郡美里町古郡の地で、日光山安光寺は現在も残り、ここには美里町文化財指定にされている寛延元年（1748）銘の梵鐘が一口

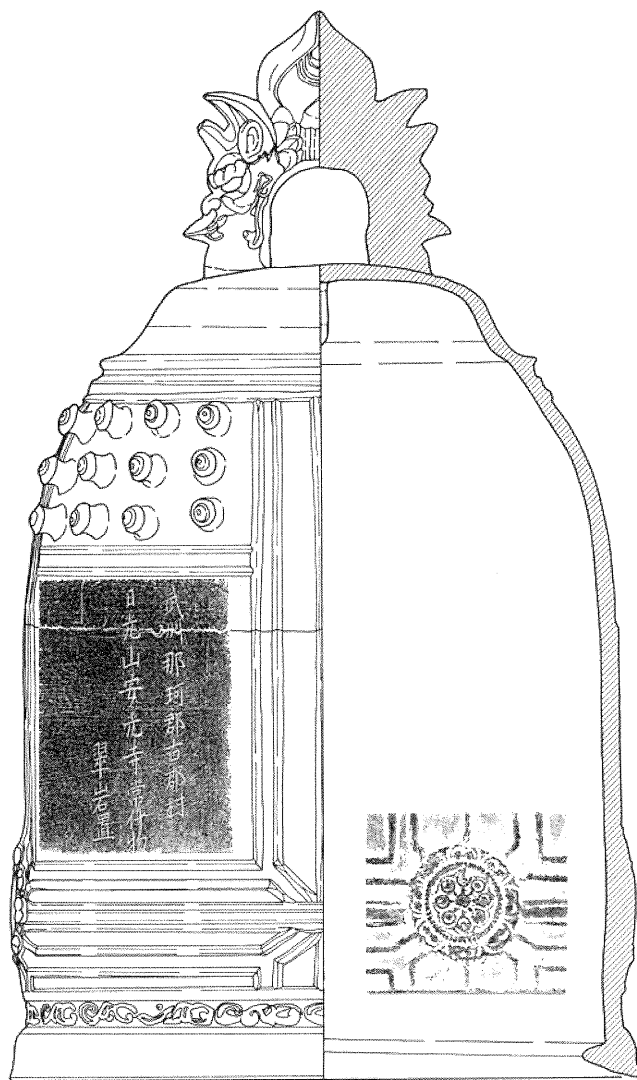
懸けられている。この梵鐘には、安光寺の由来とともに梵鐘を造るにあたって喜捨した人達の名が刻まれ、最後に「干時寛延元辰冬至日／當寺中興第一代臨濟正宗三十五世翠岩手書す／鑄工 江府神田住粉川市正 藤原宗次」と鐫刻されている。

このことから、ここに報告する半鐘にある「翠岩」は安光寺中興第一代住持で、「粉川市正」とは江戸神田に住した鑄物師「粉川市正 藤原宗次」であることがわかる。

「粉川市正」については、香取秀眞著『江戸鑄師名譜』（1952年）によると、「粉川市正藤原宗次」の名は、相模海老名海源寺鐘（元文二（1737）年）・横浜小松本法寺鐘（元文二（1737）年）・市ヶ谷長延寺鐘（元文五（1740）年）・岩手県平館大衆院鐘（寛保元（1741）年）・茨城高井高源寺鐘（延享四（1747）年）・武蔵美里安光寺（寛延元（1748）年）が挙げられている。

このことから、立正大学博物館所蔵の「安光寺」銘の半鐘は、鑄物師「粉河市正藤原宗次」によって造られたもので、年代も恐らく美里町文化財指定にされている寛延元年（1748）銘の梵鐘と同時期頃に作成されたものと考えられる。





施主江戸呉服町
谷口要助
粉川市正作

九樂堂道然居士
秀延誠有信女
相葉齋遊仙法道居士
轉舉壽清信女
東林齋鐵山道空居士
直雲齋法山道空居士

武州那珂郡古那村
日光山安光寺常件牧
翠山石置

(7) 教育 普及

平成17年8月3日(水)から9日(火)の7日間、博物館で館務実習を行った。

(実習内容)

8月3日(水)

- ・ 午前の部
 - 館長挨拶
 - 館務実習の説明
 - 館の概要説明
 - 館内施設の見学
- ・ 午後の部
 - 考古学資料の取り扱い(1)
 - 資料の搬入

8月4日(木)

- ・ 午前の部
 - 自然史関係実習(1)
 - (講師 菊地 隆男先生)
- ・ 午後の部
 - 自然史関係実習(2)
 - (講師 菊地 隆男先生)

8月5日(金)

- ・ 午前の部
 - 考古学資料の取り扱い(2)
 - 洗浄
- ・ 午後の部
 - 講話「学芸員について」
 - (講師 塩野 博先生)

8月6日(土)

- ・ 午前の部
 - 考古学資料の取り扱い(3)
 - 洗浄2
- ・ 午後の部
 - 考古学資料の取り扱い(4)
 - 接合・復元

8月7日(日)

- ・ 午前の部
 - 考古学資料の取り扱い(5)
 - 拓本
- ・ 午後の部
 - 考古学資料の取り扱い(6)
 - 資料の搬出

8月8日(月)

- ・ 午前の部
 - 図録の作成(1)
 - 解説
- ・ 午後の部
 - 図録の作成(2)
 - 図版

8月9日(火)

- ・ 午前の部
 - 図録の作成(3)
 - 割付
- ・ 午後の部
 - 意見交換会
 - 実習に参加して
- ・ 終了式



実習参加者

III. 寄贈図書目録 (2003. 4～2004. 3)

<北海道>

(財) アイヌ文化振興・研究推進機構

- ・アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告第5集
- ・(財) アイヌ文化振興・研究推進機構助成事業案内平成18年版

<青森県>

青森市教育委員会

- ・青森市埋蔵文化財情報 いにしえ青森
—The Sites of AOMORI City—VOL.13
青森市埋蔵文化財報告
- ・第76集 栄山 (3) 遺跡発掘調査報告書
- ・第77集 赤坂遺跡発掘調査報告書
- ・第78集 三内丸山 (8) 遺跡発掘調査報告書
- ・第79集 市内遺跡発掘調査報告書13
- ・第81集 石江遺跡群発掘調査概報 新田 (1)
高間 (1) 遺跡
- ・第80集 合子沢松森 (2) 遺跡発掘調査概報

<宮城県>

東北大学史料館

- ・東北大学資料館だより第5号

東北歴史博物館

- ・東北発掘ものがたり2

<福島県>

(財) 福島県文化振興事業団 福島文化財センター
白河館

- ・まほろん通信 VOL.16～19

<栃木県>

小川町教育委員会

- ・小川町文化財資料集 第12冊 国指定史跡那須小川古墳群

佐野市郷土博物館

- ・佐野市郷土博物館年報—平成16年度—

(財) とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター

- ・栃木県埋蔵文化財センター通信 やまかいどう No.39～41

栃木県立なす風土記の丘資料館

- ・第13回企画展 那須与一とその時代
- ・栃木県立なす風土記の丘資料館年報 第12～13号

<群馬県>

群馬県教育委員会

- ・戸谷遺跡—平安時代製鉄遺構の調査—

(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団

- ・遺跡に学ぶ 第26～27号
- ・研究紀要23～24
- ・年報24
- ・埋文群馬No.44～45
- ・最新情報展 注目された遺跡の成果 展示レポート10
- ・群馬の遺跡1 旧石器時代
- ・群馬の遺跡2 縄文時代
- ・群馬の遺跡3 弥生時代
- ・群馬の遺跡4 古墳時代Ⅰ【古墳】
- ・群馬の遺跡5 古墳時代Ⅱ【集落】
- ・群馬の遺跡6 古代
- ・群馬の遺跡7 中世～近世

(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告集

- ・第224集 棚島川端遺跡
- ・第271集 中里見遺跡群
- ・第335集 前田遺跡
- ・第337集 萩原遺跡 新井大田関遺跡
- ・第338集 西大室上諏訪遺跡
- ・第341集 奥田道下遺跡 (稲城)

- ・第346集 今井三騎堂遺跡・今井見切塚遺跡
ー歴史時代編ー
- ・第349集 久々戸遺跡(2)・中棚Ⅱ遺跡〈2〉・
西ノ上遺跡・上郷A遺跡
- ・第350集 今井三騎堂遺跡 今井見切塚遺跡ー
縄文時代編ー第3集
- ・第352集 波志江中屋敷西遺跡
- ・第355集 横壁中村遺跡〈2〉
- ・第356集 川原湯勝沼遺跡〈2〉
- ・第357集 高林三入遺跡 八反田遺跡
- ・第358集 浜町遺跡
- ・第359集 泉沢谷遺跡
- ・第360集 塚畑遺跡・宮内遺跡・稲荷前遺跡・
三島木遺跡・城ノ内遺跡
- ・第362集 下元屋敷遺跡(一)
- ・第363集 霜田遺跡
- ・第364集 郷恵久保遺跡
- ・第361集 諏訪ノ木遺跡
- ・第365集 綿貫小林前遺跡
- ・第365集 今井道上
- ・第366集 棟高辻久保遺跡ー旧陸軍前橋飛行
場跡地の調査ー(縄文時代～近代の遺跡・遺
物)
- ・第368集 横壁中村遺跡(3)
- ・第369集 高崎城XV遺跡
- ・第370集 西田島遺跡
- ・第371集 高林西原古墳群
- ・第372集 富田漆田遺跡・富田下大日遺跡
- ・第376集 島悪途遺跡

高崎市観音塚考古資料館

- ・平成17年度企画展 文様の美 土器にみる生
命のかたち

<埼玉県>

上尾市教育委員会

- ・上尾の文化財保護(年報)平成16年度
- ・畔吉諏訪神社の石造物に見られる石工のこと・

藤原朝弘のこと

上尾市文化財調査報告

- ・第29集 秩父山遺跡ー第4次調査ー
- ・第30集 尾山台遺跡ー第2次調査ー
- ・第75集 南前遺跡・後山遺跡
- ・第76集 殿山遺跡
- ・第77集 畔吉ささら獅子舞
- ・第78集 後山遺跡(第4次調査)・糝谷遺跡
(第2次調査)・菅谷北城(第3次調査)

朝霞市博物館

- ・朝霞市博物館要覧 第4号
- ・朝霞市博物館研究紀要 第7～8号
- ・朝霞市博物館館有資料目録V
- ・朝霞市博物館活用授業実践事例集Ⅱ
- ・朝霞市博物館調査報告書第4集 中世資料集
2 遺跡・石塔編
- ・第14回企画展 ニッポンノキレイー丸山芸術
の森コレクションと朝霞の工芸作家たちー
- ・第17回企画展 広沢郷の時代ー中世の朝霞を
探るー

入間市博物館

- ・入間市博物館紀要 第4～5号
- ・入間市博物館文書目録第4集 中島敏雄家文
書目録

岩槻市教育委員会

- ・太田貝塚第5地点発掘調査報告書

浦和くらしの博物館民家園

- ・みんなえんだより 第27～29号
- ・さいたま市指定文化財 旧綿貫家住宅移築復
原工事報告書

川口市立科学館

- ・年報 平成16年度

川越市立博物館

- ・博物館だより 第42～46号
- ・第23回企画展 刀工 藤枝英義とその時代
- ・第25回企画展 民間信仰のかたちー地域と講ー
- ・第26回企画展 中世陶磁への招待ー地中から

のメッセージー

- ・第27回企画展 川越の大絵馬ー絵柄に託された人々の願いー

川越市教育委員会

- ・川越の民俗調査報告書第1集 福原・南古谷地区の民俗

行田市郷土博物館

- ・ミュージアム行田 No.35
- ・行田の歴史を調べてみよう！
- ・第16回テーマ企画展 行田女子高ー女子教育の90年ー
- ・第19回企画展 東歌の郷と古代の文字

熊谷市立図書館 美術、郷土係

- ・熊谷の合併の変遷ー大きくなった熊谷市ー

江南町教育委員会

江南町埋蔵文化財発掘調査報告書

- ・第14集 立野古墳群発掘調査報告書

さいたま文学館

- ・館報 第8号
- ・さいたま文学館だより 通巻5号
- ・収蔵庫からのメッセージー収集・整理・保存ー

さいたま川の博物館

- ・さいたま川の博物館 紀要 4～5号
- ・かわはく No.22～24
- ・第1回テーマ展 荒川が生んだ焼き物今戸焼
- ・平成17年度特別展 蘇る縄文ー自然と暮らした人々ー

埼玉県平和資料館

- ・平成17年度企画展 戦後60年戦争の記憶ー205人の証言ー
- ・埼玉県平和資料館だより vol.13-1
- ・平成17年度テーマ展 山碧くうるわし唱歌の世界 (DVD)

埼玉県立博物館

- ・一刻まれた鼓動ー歓喜院聖天堂の建築彫刻
- ・埼玉県発掘調査速報2004
- ・THE A MUSEUM 119～120号

- ・特別展「あの遺跡この遺物 埼玉発掘50年史」

- ・埼玉県立博物館要覧 第31号

- ・平成16年度博物館要覧

埼玉県立歴史資料館

- ・研究紀要 第27号

- ・まほろばの里・比企ー慈光寺とその周辺ー

埼玉県立自然史博物館

- ・埼玉県立自然史博物館報 第18号
- ・埼玉県立自然史博物館研究報告 第20・21～22号
- ・自然史だより 第56～58号
- ・自然史百科 89～92

- ・埼玉県立自然史博物館収蔵資料目録第17集 鉱物 (2)

- ・平成17年度特別展 石の用と美

(財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

- ・年報15 平成16年度

さいたま市立博物館

- ・大宮市立博物館研究紀要 第8号
- ・大宮の教育史調査報告書 (V) 明治期大宮の生活・教育・文化 上
- ・さいたま市・岩槻市合併記念事業 特別展 戦国時代のさいたまー城と館からさぐるー

庄和町教育委員会

庄和町文化財調査報告

- ・第11集 塚崎遺跡ー第1・2・3・4・5・6次調査の記録ー
- ・第12集 町内遺跡範囲確認調査報告書IIー平成元年度～平成10年度ー
- ・第13集 町道遺跡・町通中遺跡
- ・第14集 浅間下遺跡第3次 香取廻遺跡第2・5次 愛宕遺跡第2次 原遺跡第2次 馬場遺跡ー範囲確認調査ー

庄和町遺跡調査会報告書

- ・第11集 風早遺跡第3次調査 馬場遺跡第4次調査

戸田市立郷土博物館

- ・戸田市立郷土博物館要覧 2005年度
- ・戸田市立郷土博物館調査報告書 第6集 市川和夫標本コレクション鱗翅類目録
- ・郷土博物館だより vol.33
- ・平成17年企画展 埴輪のいろいろ
- ・第21回特別展 食べ物 いま むかし

羽生市郷土資料館

- ・第23回特別展 里山の自然

富士見市立資料館

- ・平成15年度企画展 みずほの台地の弥生のくらし

富士見市立難波田城資料館

- ・富士見之板碑

ふじみ野市立大井郷土資料館

- ・平成17年度 大井戸と鉄 古代の大井を復元する

ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館

- ・資料館通信 第58号
- ・第20回特別展 東上線の開通と上福岡駅 一舟運の終末から鉄道へー

宮代町郷土資料館

- ・平成17年度特別展 宮代町50年のあゆみ

吉田町教育委員会

- ・世界のバンブーロケット 龍勢の系譜と起源

吉見町教育委員会

- ・大昔のよしみ 古代ロマンへの旅「三ノ耕地」遺跡
- ・吉見町文化財調査報告書 吉見町 息障院所蔵仏画經典保存修復事業報告書

寄居町教育委員会

- 寄居町文化財調査報告
- ・第27集 町内遺跡10 末野窯跡群第5支群
- ・第28集 町内遺跡11 福泉坊遺跡(第1次調査) 福泉坊遺跡(第2次調査) 伊勢原遺跡(第4次調査)

立正大学大学院地球環境科学研究科オープンリサーチセンター

- ・立正大学文部科学省学術研究高度化推進事業 オープンリサーチセンター(ORC)整備事業 平成15年度事業報告書
- ・立正大学文部科学省学術研究高度化推進事業 オープンリサーチセンター(ORC)整備事業 平成16年度事業報告書

鷲宮町立郷土資料館

- ・第6回企画展 埼玉の神楽展〜神楽の笛に誘われて〜

蕨市立歴史民俗資料館

- ・第15回特別展 15年戦争の記憶 節米と代用食の時代
- ・第16回平和祈念展「子どもたちの戦争」
- ・第23回特別展 写真で見る蕨市の原風景
- ・蕨市立歴史民俗資料館紀要 第1号
- ・蕨市立歴史民俗資料館紀要 第3号

真言宗智山派應珠山 長久寺

- ・長久寺

徳蔵寺総代 根岸政雄

- ・「熊谷・根岸館」六四五年

<千葉県>

市立市川考古博物館

- ・市立市川考古博物館館報 第32号

千葉県立房総のむら

- ・千葉県立房総のむら館報 瓦版 大木戸 Vol.34

城西国際大学物質文化研究センター

- ・物質文化研究 第2号
- ・吉備考古ライブラリー12 石棺と陶棺

山武考古学研究所

- ・富山市願海寺城跡発掘調査報告書144

茂原市立美術館・郷土資料館

- ・平成17年度郷土資料館企画展図録 貝塚と骨角器

<東京都>

板橋区立郷土資料館

- ・平成17年度特別展 夢を掘った少年たち

板橋区教育委員会

文化財シリーズ

- ・第89集 安養院所蔵文書・聖教類目録 一
- ・第90集 安養院所蔵文書・聖教類目録 二

学習院大学

- ・学芸員Bulletin for Curator's Course 2005 No.9

國學院大學 文学部考古学研究室

- ・21COE考古学シリーズ1 予稿集 國學院大學21世紀COEプログラム国際シンポジウム東アジアにおける新石器文化の成立と展開
- ・21COE考古学シリーズ3 予稿集 國學院大學21世紀COEプログラム国際シンポジウムー動物と儀礼-東アジアの中の日本ー
- ・21COE考古学シリーズ4 國學院大學21COEプログラム2004年度考古学調査研究報告ー東アジアにおける新石器文化と日本IIー

国際縄文学協会

- ・国際縄文学協会紀要 第1号

駒澤大学禅文化歴史博物館

- ・駒澤大学禅文化歴史博物館蔵品目録 絵画・墨蹟編1
- ・企画展「館蔵資料展2005ー禅の風光とその一品ー」
- ・駒大史ブックレット4 宣教部日誌にみる大正期の駒大生【その3】

渋谷資料館

- ・日米実業史競
- ・青淵 671号～684号
- ・渋谷研究 第16号
- ・渋谷史料館報 1999年度～2002年度

女子美術大学

- ・女子美 No.149～153
- ・女子美術大学美術館年報 第1～2号

(株)文化環境研究所

- ・Cultivate No.24～27

実践女子学園香雪記念資料館

- ・実践女子学園香雪記念資料館館報 創刊号 (平成12年度～平成15年度)
 - ・実践女子学園香雪記念資料館館報 第2号
- 社団法人 日本ユネスコ協会連盟
- ・ユネスコ世界遺産年報2006 No.11

玉川大学教育博物館

- ・博物館ニュース「集」 No.22～25
- ・玉川大学教育博物館館報 第3号2004年度

(株)丹青研究所

- ・Museum Data【季刊】No.67～69

東京家政学院生活文化博物館

- ・第17回特別展 遺跡との出会いー東京家政学院大学考古学実習の成果ー
- ・東京家政学院生活文化博物館年報 第14～15号

東京農業大学「食と農」の博物館

- ・「食と農」の博物館展示案内 No.2 オホーツクの自然と産業展
- ・「食と農」の博物館展示案内 No.3 木のぬくもりとふしぎ展
- ・「食と農」の博物館展示案内 No.4 エベレスト・ローツェ環境登山展ー環境登山への挑戦ー

日本博物館協会

- ・博物館研究 通巻445～453号
- ・倫理指針1999年 カナダ博物館協会
- ・博物館の倫理規程2000年 アメリカ博物館協会
- ・博物館の倫理規程2002年 イギリス博物館協会
- ・誰にもやさしい博物館づくり事業 外国人対応博物館の望ましい姿シリーズ3

三鷹市遺跡調査会事務所

- ・天文台構内遺跡IV 第28集

明治大学博物館事務室

- ・明治大学博物館年報 2003年度
- ・明治大学博物館研究報告 第10号

明治大学博物館

- ・陸奥国磐城平藩・日向国延岡藩 内藤家文書
増補・追加目録8 延岡藩主夫人 内藤充真
院繁子道中日記
- ・内藤家文書増補・追加目録9
- ・明治大学博物館資料 第19集

明治大学校地内遺跡調査団

- ・明治大学校地内遺跡調査団年報1 (2003年度)
- ・明治大学校地内遺跡調査団年報2 (2004年度)

立正大学経営学会

- ・立正経営論集 第37巻 第2号
- ・立正経営論集 第38巻 第1号

<神奈川県>

かながわ考古学資料刊行会

- ・かながわの考古学 研究紀要9～10

北川前肇先生

- ・元政上人寶物殿総目録

<山梨県>

四季の杜 おしの公園 岡田紅陽写真美術館

- ・富士 紅陽

小池邦夫絵手紙美術館

- ・小池邦夫絵手紙美術館作品集 第1集 小池
邦夫の墨演奏

<長野県>

(株) 郷土出版社

- ・図説 古河・岩井・水海道・猿島の歴史

市立大町山岳博物館

- ・山と博物館 第49巻 第6号
- ・山と博物館 第50巻 第6号

長和町教育委員会

- ・県道男女長門線改良工事に伴う発掘調査報告

書一鷹山遺跡群第Ⅰ遺跡および迫分遺跡群発
掘調査一 (CD-ROM付)

箕輪町郷土博物館

- ・羽場の森古墳第2号
- ・箕輪遺跡

<富山県>

大沢野町教育委員会

- ・富山県上新川群大沢野町 布尻遺跡・布尻B遺
跡試掘調査報告

富山市教育委員会 埋蔵文化財センター

富山市埋蔵文化財調査報告

- ・118 富山市境野新南Ⅱ遺跡・池多東遺跡発
掘調査報告書
- ・131 富山市金屋南遺跡発掘調査報告書Ⅱ
- ・132 北代西山Ⅱ遺跡・茶屋町遺跡発掘調査
報告書
- ・139 富山市富山城跡発掘調査概要
- ・141 富山市池多南遺跡・池多南Ⅱ遺跡発掘調
査報告書
- ・142 富山市内遺跡発掘調査概要Ⅵ
- ・富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報第
6号 富山市の遺跡物語

富山市考古資料館

- ・富山市考古資料館紀要 第24号
- ・富山市考古資料館報 No.42

八尾町教育委員会

八尾町埋蔵文化財調査報告

- ・第27集 富山県八尾町埋蔵文化財分布調査報
告Ⅵ

<静岡県>

伊東市教育委員会

- ・伊東市史研究第3号 伊東の今・昔
- ・伊東市史叢書4 伊東の文化財
- ・伊東市史調査報告第1集 伊東市の棟札

東海大学社会教育センター

- ・東海大学社会教育センター年報 No.32
- ・海のはくぶつかん vol. 35No.5 (通巻205号)
～vol. 36No.1 (通巻207号)

<三重県>

嬉野町教育委員会

嬉野町文化財調査報告

- ・第20集 御所垣内遺跡
- ・第23集 弥五郎垣内遺跡発掘調査報告書
- ・第24集 野田遺跡発掘調査報告書3次調査

松坂市埋蔵文化財センター

- ・平成14年度文化財調査概要
- ・平成15年度文化財調査概要
- ・平成15年度天白遺跡調査概要
- ・平成16年度天白遺跡5次調査発掘調査概要
- ・古代シンポジウム
- ・一般国道23号 中勢道路 赤部遺跡調査概報
III

<京都府>

(株)京都科学

- ・Museum Works vol.15
- ・Museum Works vol.17

京都府府民労働部文化芸術室

- ・京都府所蔵美術工芸品

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

- ・京都府埋蔵文化財情報 第96号
- ・京都府埋蔵文化財情報 第98号

同志社大学歴史資料館

- ・同志社大学歴史資料館館報 第8号
- ・同志社大学歴史資料館調査研究報告第5集
同志社大学校内遺跡発掘調査報告書(2004年度)

<大阪府>

大阪大学総合学術博物館

- ・大阪大学総合学術博物館叢書1 扇のなかの

中世都市-光円寺所蔵「月次風俗図扇面流し
屏風」

<兵庫県>

兵庫県立美術館

- ・地図に載らない文学館 ネットミュージアム
兵庫文学館(CD)

<奈良県>

奈良文化財研究所 飛鳥資料館

- ・飛鳥の奥津城

<高知県>

高知県立歴史民俗資料館

- ・岡豊風日 第51・54～55号
- ・高知県立歴史民俗資料館年報 平成16年度
No.14

<福岡県>

九州産業大学美術館

- ・平成14・15年九州産業大学美術館年報 No.1
- ・九州産業大学美術館調査研究報告書 第1集

筑紫女学園大学

- ・学芸員の星たち 平成16年度版

筑紫野市教育委員会

筑紫野市文化財調査報告書

- ・第66集 貝元遺跡2(図版編)
- ・第80集 国境石確認調査
- ・第81集 下見橋橋台確認調査
- ・第82集 大宰府条坊跡 第155次発掘調査
- ・第83集 道德遺跡
- ・第84集 トドキ遺跡III
- ・第85集 竹敷遺跡 第2次発掘調査

立正大学博物館年報 4

(平成17〈2005〉年度)

平成18 (2006) 年3月31日 発行

編集・刊行 立正大学博物館

〒360-0161 埼玉県熊谷市万吉1700

TEL. 048-536-6150 FAX. 048-536-6170

E-mail: museum@ris.ac.jp

<http://www.ris.ac.jp/museum/>

(印刷 東ブリ)